

全国養護教諭
連絡協議会

会報

NO.61

平成22年9月 発行
全国養護教諭連絡協議会
代表者 堀田 美枝子
東京都港区芝公園 2-6-8
日本女子会館 5階
TEL.:03(3433)5767
FAX.:03(3433)5768

全国養護教諭連絡協議会ホームページアドレス <http://www.yougo.jp>

「子どもたち、一人ひとりのために」



全国養護教諭連絡協議会

副会長 高橋 由美子

会員の皆様には、日頃より、本会運営のために深いご理解とご支援・ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、平成21年4月の「学校保健安全法の施行」を受け、養護教諭は、学校保健活動の中核的存在として、関係する教職員や医療機関等の関係団体と連携することにより、多様化する児童生徒の心身の健康問題について対応していくことが求められています。昨年度は、それぞれの学校で試行錯誤の中、実践的取り組みが

なされたのではないのでしょうか。しかし、子どもたち一人ひとりの多様な健康課題を見極め、その解決を図るためには、私たちは養護教諭としての専門性を追究し、資質向上を図るとともに、コーディネーターとしてのマネジメント能力を高めていく必要があります。未来を担う子どもたちの心とからだを健やかに育てていくためには、基本を見据えて、一人ひとりが養護教諭としての資質を磨くことが大切になってきます。全養連では、研修会や研究協議会の開催、研究誌「瑠星」の発刊などを通して、養護教諭としての資質向上を図ることに努めていきたいと考えています。

ところで、平成22年3月2日、文部科学省3階会議室において「第2回 今後の学級編成及び教職員定数の改善に関する教育関係団体ヒアリング」が行われました。この日の参加団体は、全養連を含む教育関係の6団体でした。全養連では、数年来、要請要望してきた複数配置の定数改善を求めるとしての意見発表を堀田会長が行いました。このヒアリングの中で、全養連以外のすべての団体からも養護教諭の複数配置を望むという多数のご意見をいただきました。これは、様々な支援を求めている子どもたちへの対応はもとより、その保護者・教職員・そして、関係機関との連携を担っている養護教諭を複数配置することで、十分な教育的効果を期待できるという多くの教育関係者の考えであると感じました。これまでの各校における養護教諭の地道な実践があったからこそその各団体からの発言だったと思います。このヒアリングを受けて、児童生徒の学級編成に関する改善が図られてきています。養護教諭の複数配置に関しては、今後の動きを見守りたいと思います。

さて今年度の総会で、水戸俊子会長から堀田美枝子会長へと会長職の交代がありました。

堀田美枝子新会長のもと、役員一同気を引き締めてがんばっていきたくと思っています。会員の皆様には、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



平成22年度もがんばります

堀田美枝子会長を中心に、今年度も
役員一同力を合わせて頑張ります。
どうぞ、よろしくお願い申し上げます。
全国養護教諭連絡協議会 役員一同

お疲れさまでした！

水戸俊子前会長が、6月の総会をもって退任いたしました。1年間、大変お疲れ様でした。

平成22年度 総会報告

日時 平成22年6月12日(土) 13:00～16:00

会場 日本青年館 会議室

会長挨拶

議長団選出

日垣 慶子 (大阪) 瀬口久美代 (熊本)

議事録署名員 記録

八島ひとみ (山形) 保坂 裕子 (新潟)

星笠 京子 (東京) 木村 洋子 (愛知)

議 事

- 平成21年度事業報告
- 平成21年度決算報告・会計監査報告
- 会長辞任と新会長の承認について
- 平成22年度基本方針
(活動方針)
 - 研修活動の充実を図る
夏期研修会、研究協議会、学校保健連絡協議会を通して、養護教諭の職務や現代的健康課題の解決に向けた研修を行う。
 - 調査研究活動の充実・発展に努める
健康教育の発展を目指した研究活動の充実を図るとともに、学校保健や養護教諭を取り巻く諸問題について調査研究を行う。
 - 養護教諭に関わる法的問題の改善に向けた取組を継続する。
 - 全国養護教諭連絡協議会の組織盤石化を図る
全国組織として、会の適正な運営に努めるとともに、関係機関との連携を図る。
 - 広報活動の充実を図る
会報の発行やホームページの充実に努め、学校保健・養護教諭に関する事柄について周知理解を図る。
- 平成22年度事業計画
- 平成22年度会計予算
- 平成22年度理事、監事、役員選出委員、調査研究委員の選出について

第12回 学校保健連絡協議会報告

日時 平成22年6月12日(土) 10:30～12:00

会場 日本青年館

講演

演 題 「新インフルエンザ等の感染症対応について」

講 師 国立感染症研究所 感染症情報センター

主任研究官 安井良則氏

内容について

- 施設内での主な感染症と感染経路について
 - 特に麻疹・ノロウイルス・インフルエンザについて詳しい説明。
 - 「感染する=感染症になる」ではない。
- 昨年新型インフルエンザ発生時の対応について
 - 2009年5月17日～7月24日の大阪府内の新型インフルエンザ発生患者数の推移→大阪・兵庫でとられた対策により、新型インフルエンザの第一波は、阻止された可能性大。
 - 講訪中傷・風評被害について→今後の対策に大きな影響をあたえることが予想される。
- 今後の対策について
 - まずは、情報に関心を持つこと。興味本位の情報に惑わされてはいけない。
 - 職員が感染しない体制をまず考えること。感染発病している職員がしんどくても頑張るのは、もっとも不適切である。
- 学校欠席者情報収集システムの案内
 - 学校欠席者情報収集システムの稼働率は、2010年6月現在で、全国で9000校・全学校の20%。
 - 学校欠席者情報収集システムは、国立感染症研究所感染症情報センターが作成した「記録・連携・早期発見」を一元化した新しいリアルタイムサーベイランスである。是非活用してほしい。



第16回 研究協議会 速報

日時 平成23年2月25日(金) 9時30分から

会場 メルパルクホール(東京都港区芝公園2-5-20)

主 題 「時代の変化に対応した養護教諭の役割を追究する」

～組織的な対応における養護教諭の役割とは～

- 内 容
- (1) 特別講演 新潟大学大学院教授 医学博士 安部 徹氏
演題 「生き方、食べ方と子どもの健康」
 - (2) 講 演 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課
健康教育企画室健康教育調査官 采女智津江氏
 - (3) フォーラム コーディネーター 宮城教育大学教授 数見 隆生氏

多くの参加をお待ちしております。メルパルクでお会いしましょう。

平成22年度 全国養護教諭研究大会平成22年8月19日～20日
徳島県 アスティとくしま

平成22年度全国養護教諭研究大会は、8月19日・20日の2日間、全国から約1000人の参加者が集い、徳島市で盛大に開催されました。開会式では、堀田会長が登壇しました。

堀田会長は大会誌のあいさつで、「『学校保健安全法』の施行から2年目。養護教諭に対する期待に応えるために実践を重ねていかなければなりません。そのため、「強い情熱」「豊かな人間性」「実践的な指導力」等を高め、子どもたちに生命尊重の精神や自己肯定感を育て、子ども自らがこの社会をたくましく生きていく力を身に付けられるよう、健康教育を推進していくことが重要です」と述べていました。



記念講演は、国立感染症研究所感染症情報センターの安井良則氏が「2009年に流行した新型インフルエンザの発生動向と今後の対応について」という演題で、昨年度の新型インフルエンザ流行を振り返り、これからも感染対策として咳エチケットが重要であることなどのお話をされました。そして、「インフルエンザの流行はどんな形であれまたやってきます。油断せず、かつ恐れすぎずに対策をしましょう。国内で発生するほとんどの感染症は学校で集団発生します。感染症流行の対策は、学校で実施されてこそ有効な対策となることをご理解ください」とまとめられました。

2日目は、8つの課題別に分かれ、どの会場も実践発表をもとにした熱心な研究協議がなされました。

来年度は、8月4日～5日、佐賀県で開催されます。

全国養護教諭連絡協議会第13回研修会報告

「健康相談研修」

1日目 7月29日(木) 講義・演習I「教育カウンセリング概論・構成的グループエンカウンター」

—講師— 東星学園幼小中高等学校長 加勇田修士先生

参加者の感想1

ついついあなたメッセージになりがちですが、ワンネス・ウィネス・アイネスを念頭に子どもと関わっていくと、加勇田先生の話聞き感じました。そして、子どもにストレスを与えるのではなく、十分なエネルギーが与えられるような保健室にしていきたいです。



「あなたメッセージ」より「私メッセージ」を使いましょう。ワンネス・アイネス・ウィネスです。



参加者の感想2

自分の弱さ、不足してるところ、今までやきもきしていたことを的確に返していただいたこと、でも決して責められず、温かく包んでいただいたこと、自分にとって強く印象に残った研修でした。乗り越えなければならぬ壁がはっきり見えた研修でした。感謝の気持ちでいっぱいです。



心情で共感せず、行動特性を捉えましょう。熱い対応と冷めた判断が必要です。



「保健教育研修」

1日目 8月5日(木)・2日目 8月6日(金)

—講師— 岐阜大学教授 近藤真庸先生

TA 公立小学校教諭 岩田高明先生 山内康彦先生

保健授業づくり入門

—“触発・追究型”の保健授業づくりをめざして—



近藤先生の作った(シナリオ)をもとに、お二人のプロの教師が模擬授業を展開してくださいました。



自分にしかできないこと、養護教諭だからできる保健の授業をしてほしいと思います。

参加者の感想3

テンポの良い話に引き込まれ、話に引き込まれ、2時間アッという間でした。安心して集中できる工夫がちりばめられていた。わくわくしながら学べる授業を作りたいと思いました。



参加者の感想4

45分の授業の中で、何ができるか。そのためには、様々な仕掛けや準備が必要なることを学びました。模擬授業を受けることにより、子どもの目標を感じる事ができました。

参加者の感想5

「ライブハウス」になるような生き生きとした授業を作りたいと思いました。



平成21・22年度 会報編集委員 (後列左から)

古 賀 一 枝 (千葉市立更科小学校)
岸 真紀子 (市川市立富美浜小学校)
小 尾 敦 子 (市原市立国分寺台中学校)
伊 藤 美由紀 (匝瑳市立共興小学校)
米 元 まり子 (市原市立ちはら台南中学校)

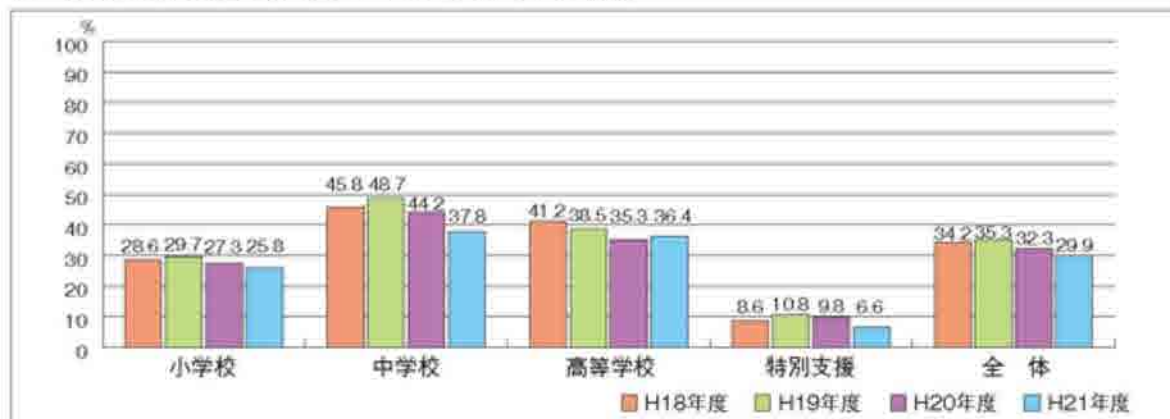
よろしく
お願いします

平成21年度 養護教諭の職務に関する調査

会員の20%を対象に、アンケート調査を行った結果です。

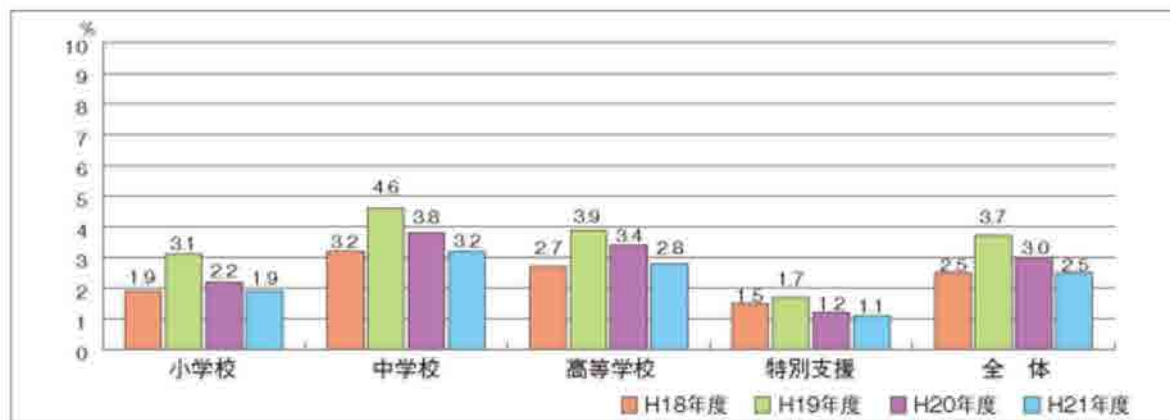
<保健室登校に関すること>

★ 保健室登校児童生徒のいた学校(割合)の年次推移



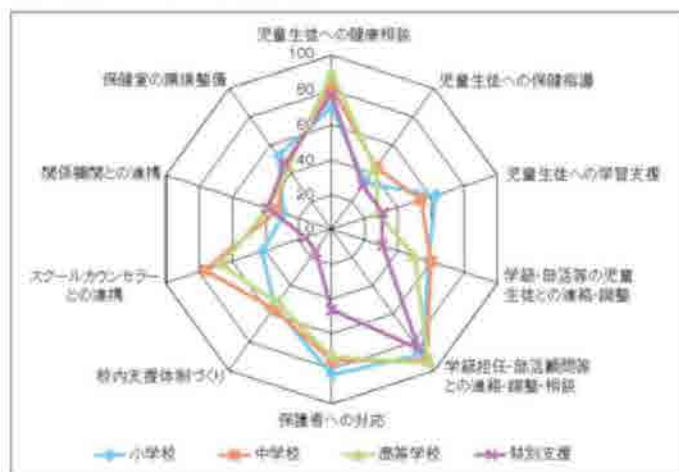
○ 保健室登校児童生徒がいる割合は、中学校が一番高く、高等学校、小学校の順になっている。

★ 1校あたりの保健室登校児童生徒数の年次推移



○ すべての校種で平成19年度をピークに減少している。

★ 保健室登校の支援内容

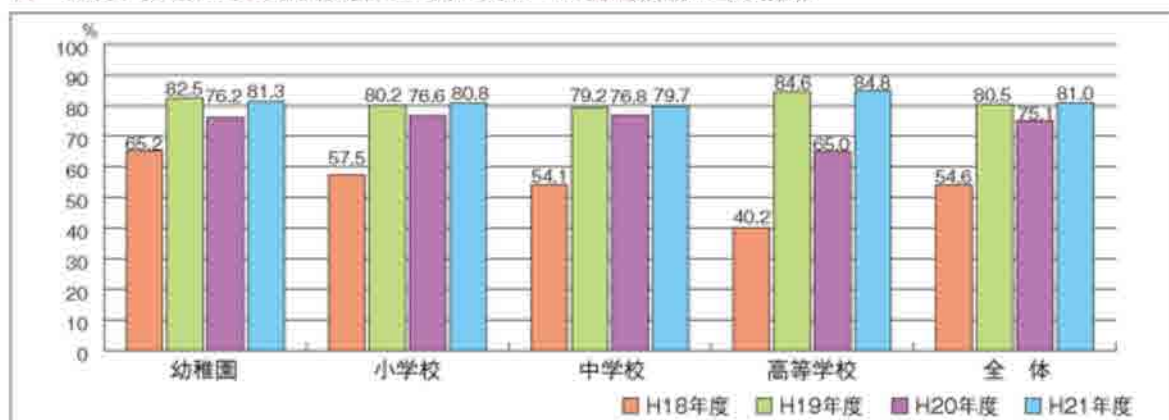


○ 保健室登校児童生徒への支援内容については、全体では「学級担任や部活動顧問との連絡・調整・相談」の割合が最も高く、91.1%であった。次いで「保護者への対応」が、78.1%、「児童生徒への健康相談」が、77.6%であった。

○ 課題として「関係機関との連携」や「児童生徒への保健指導」「保健室の環境整備」などが、不足している様子がうかがえる。

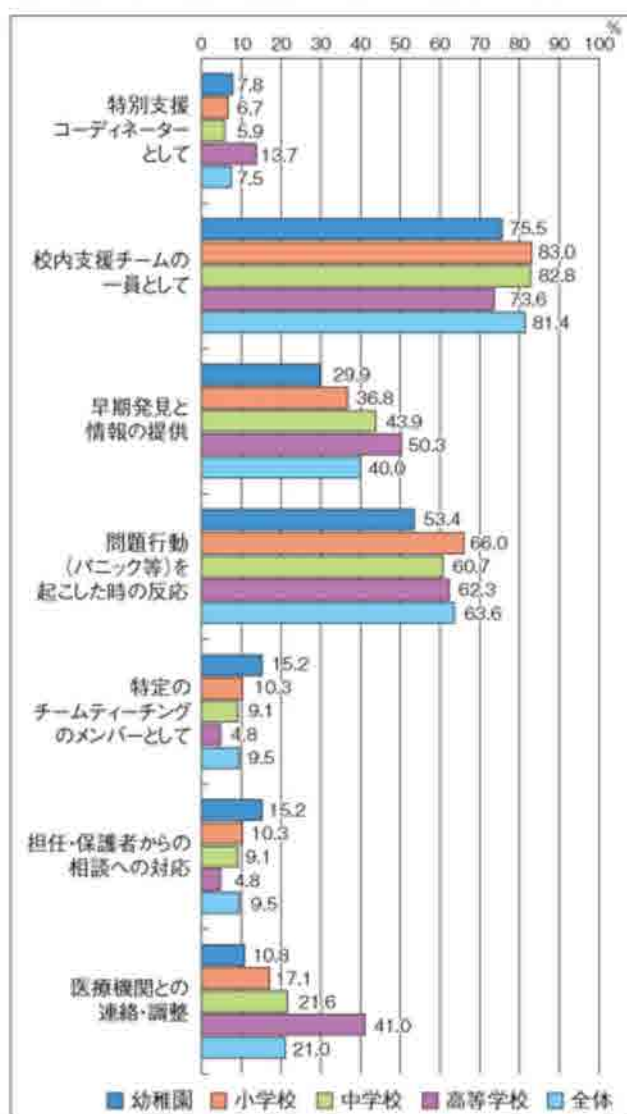
<特別支援に関すること>

★ 特別に支援が必要な園児児童生徒に関わった養護教諭の年次推移



○ 平成20年度は減少していたが、平成21年度の調査では幼稚園を除き、増加している。

★ 校種別、特別な支援が必要な園児児童生徒へのかかわり方



○ 特別な支援が必要な園児児童生徒への養護教諭のかかわり方をみると、すべての校種で「校内の支援チームの一員として」の割合が81.4%と最も大きい。次いで「問題行動を起こした時の対応」63.6%、「早期発見と情報の提供」40.0%の順であった。

○ 高等学校においては、「医療機関との連絡・調整」が、41.0%で他の校種に比べて高率であった。

○ 養護教諭が、校内支援チームの一員として特別な支援が必要な園児児童生徒への対応に、深く関わっていることがうかがえる。



「養護教諭の職務に関する調査」のまとめを行っています。10月末に各研究会に報告書を配付します。ご意見・ご感想をお寄せください。

調査研究委員紹介

村山 重子 仙台市立根白石中学校
 廣田 理恵 群馬県立桐生女子高等学校
 藤川 幸子 富山県射水市立大門中学校
 長光 裕子 京都府立嵐山小学校 (22年4月から)
 (小原 さかえ 21年10月～22年3月)
 岡野 澄子 坂出市立松山小学校 (22年4月から)
 (森 博子 21年10月～22年3月)